

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4072200365		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市菩提寺 183番地 53 (電話) 0946-23-1322		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(20年 8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または 1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	5 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	3 名	要介護 4			
要介護 5		要支援 2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックコスモ ・ 富田歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元々、宅老所として利用者と関わっており、平成 15年に現在の場所に老人保健施設と併設して開設したホームは、階下にクリニックも併設されている。クリニックとは医療連携が取れ、24時間いつでも対応できる為、利用者、家族は安心して日々過ごすことができている。ホームの周りには民家は少ないが、広い敷地と自然豊富な環境にあり、畑仕事やその畑で採れた野菜で漬物を作ったりボランティアの協力にて、昔の生活を思い出し能力の引き起こしに繋がっている。このような生活を職員が見守り共に助け合い、共に喜び合い家族のように暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員と相談し、運営推進会議でも取り上げできるところから改善している。理念については話し合いを持ち、地域との関わりが解りやすいものに作り直した。また、グループホーム協議会に入会し今後交流を図る計画である。災害対策において、地域の消防団と連携を図り訓練に参加してもらっている。このように、積極的に取り組みホームの質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員に自己評価及び外部評価について説明を行い、自己評価項目を職員に回覧し項目を確認してもらい話し合った。ホームとしてどのような姿勢であるべきかを知り、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者、民生委員、地域の諸関連の方々、法人役員、利用者の家族等が出席し、外部評価の改善点について話し合いを行い、前向きな意見や助言を出し合っている。活動報告等は毎回伝えホームの状況を解りやすくしている。その他、地域や家族からの意見、要望に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議に殆どの家族が出席し意見交換を行った。面会時に要望を聴き取る姿勢を作っている。直接表出できない場合は、法人内に苦情、相談受付窓口を設けている為いつでも言えるような体制を整えている。意見等があった場合は、ホームの申し送りノートに書き込み、全職員が目を通し、サインをする決まりになっており全職員が情報を共有しミーティングにて話し合いを持ち対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に民家が少なく町内会の入会はしていないが、ホームの菜園にて野菜作り地域の方の協力を得ており、消防団との避難訓練も実施している。また、近隣の保育園より来訪があり利用者との交流し利用者が楽しみにしている。その他、ボランティアによる獅子舞や手品の披露がある。ホームの納涼祭りには隣の社宅の住民を招待し賑わった。このように、年々地域との関わりが増えている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆとりと寛容の心を持ち地域に根ざした生活を応援します」といった理念を管理者、全職員で話し合い、作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に全員で唱和を行い、理念に沿うよう職員が心にゆとりを持つよう管理者が伝えている。職員は、其々が理念に向き合い、自分なりの目標を立て日々取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会等には入会していないものの、地域との関わりは、年々増えてきている。ホームの菜園での野菜作りには地域の方々の協力があり、利用者が生き生きと暮らしている一つの要因である。ボランティアによる獅子舞やみこし、手品の披露や保育園児の来訪等も頻繁にある。ホームの納涼祭りには隣の社宅の方々を招待し交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員に自己評価についての説明を行い、自己評価項目を回覧し其々に書き込んでもらい、まとめた。評価を受けることの意味を理解しホームとしての取り組みを前向きに行いホームの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催しており、出席者も多く市担当者、民生委員、地域の諸関連の方々、利用者家族(ほぼ全員)法人役員等で、ホームの活動報告や外部評価の結果報告と改善に向けての話し合いをしている。地域や家族からの意見要望も聴き取り、共に話し合い、会議を有効活用している。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	朝倉介護保険事業者協議会の研修に参加し情報交換の機会がある。また、ホームの運営面やその他不明な事柄が生じた場合は直接窓口に行き相談している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットは準備し、職員は目を通してはいるが、全職員が周知、理解しているところまで至っていない。勉強会は計画段階である。		現在利用している人や、必要としている人はいないが、今後必要となるケースに備え、全職員が周知できるよう勉強会を開き、おおまかな説明が誰でもできるよう取り組みを期待する。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に口頭にて近況を報告すると共に、運営推進会議の折に経過記録を閲覧してもらい、日々の様子を伝えている。また、写真等を掲示したりパソコンに写真を取り込み、見てもらっている。金銭管理は一括して法人の事務所にて管理となっており、必要な場合は立替え、利用料と一緒に請求する仕組みになっているが、領収証等は閲覧、確認できる。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聴き取りやすい環境を作ると共に、意見等があった場合は、申し送りノートに記録し、全員が目を通し確認の上ミーティングにて話し合い対応している。法人内の事務所には苦情相談受付窓口を設け気軽に表出できるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動があるが、引継は約1ヶ月の期間取っている。異動や新人採用時には、利用者へは個々に挨拶をし知らせ、家族には面会時に紹介している。職員交代等があっても、全職員が利用者の把握をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関しては法人が執り行っているが、特に条件は無い。ホームで働く職員の特技や趣味を活かし、利用者の機能維持に繋がるような活動、レクリエーション等を行うことで職員のやりがいを見い出す工夫をしている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	法人全体で年間計画と教育部門の部会があり、マナーや人権の勉強会を行っている。また、職員一人ひとりに対し本人のマナーチェック表があり、自分を振り返る材料として活用している。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内にて年間計画を立て、どの職員も研修部会に入り、1年に6回程全体で勉強する機会がある。部会には、感染、認知症、接遇、身体拘束等がある。他に委員会もあり、研修は担当制になっており、更に勉強に機会がある。外部研修には管理者や職員が参加し、伝達研修を行っている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質の向上させていく取り組みをしている</p>	市のグループホーム協議会に加入し、9月には施設見学の予定となっている。これを機会に職員同士の交流を図っていき、サービスの質の向上に繋げていく予定である。		グループホーム協議会に加入したことを機会に、他のホームとの交流を図り、職員も交えた勉強会や相互訪問を実施し、更なるホームの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者、職員が訪問し本人、家族から情報収集を行い、見学や日帰り体験利用等組み合わせている。当ホームは併設のデイケア利用者が入居するケースが多く、デイケアとホームの交流もある為、利用者と職員は馴染みの関係が入居前からできている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が安心できる環境を作りゆっくり話すことや、入浴時に世間話をする事で本人の思いを理解し、思いを受容する姿勢を持っている。また、昔の生活の知恵や料理、漬物の漬け方等職員が教わるが多い。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と会話をする事で、思いや意向を把握している。また、表情や言動からも把握し、申し送りノート等にも記入し確認している。また、家族からの情報収集を行い、本人と確認している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向や生活暦、状態等をケース会議にて話し合い、気付いたところがあれば再度確認しながら、本人、家族を交え計画を立てているが、長期目標、短期目標の期間が同じであったり主治医の意見等が解りづらい。</p>		<p>カンファレンス、家族の意見、要望や本人の意向を確認しての計画書を作成しているものの、主治医の意見や助言が記されていないもの、長期目標と短期目標の期間が同じものがある為この機会に整備することが必要と思われる。また、アセスメントに本人の思いや意向を記してはいるが、更に深く知るためにセンター方式を取り入れていこうと計画中である。本人の意向や思いをより深く知ることは、本人の生活がより豊かなものになるのではないだろうか。この機会にアセスメントの見直しも期待する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは1ヶ月に1回行っており職員の気付きと本人の状態に合わせた見直しの実施とカンファレンスにより6ヶ月に1回の見直しを実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の代わりにホームとしてできる事は支援している。利用者が入院した場合は、面会に行き洗濯物を持って帰り洗濯済みのものと交換する。本人が自宅へ帰る場合は、ホームから送迎を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の希望があればその主治医と連携を取り本人の状態を文書にて主治医に知らせている。階下の協力医による往診は1週間に1回あり主治医であるなしに関わらず全利用者が受診しており緊急の場合や状態の変化に対しても、看護師の協力、連携にて24時間体制で医療支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針や指針を具体的に定めておらず、家族とも重度化した場合について話し合いをしていない。		利用者の状態の変化や緊急時の対応についてのホームの方針等を取り決めることが求められる。家族とも必要に応じ話し合う機会を作り、本人、家族の意向に沿った支援ができるよう体制を整えることが本人、家族が安心した生活を送ることに繋がると思われる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人格を尊重し職員との穏やかな会話がホームの和やかな雰囲気を作っている。個人記録は鍵の掛かる書庫に保管され目に付かないようにしている。受診の予定等も予定表にはイニシャルで書かれている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、本人のペースに合わせたケアを行っている。本人の希望やその日の体調にて食事や入浴その他レクリエーション等自由にその日を送っている。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の施設と一緒に調理された食事が出されるが、利用者のできる事を職員とともに楽しみながら行っている。盛り付け、配膳、後片付け等役割もある。また、食事の前に利用者が当番にて、その日の献立やその時々感想等も交えて挨拶をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間の設定は設けておらず、本人の希望する時間に入浴している。入浴を嫌がる人には、清拭したり併設のデイケアでの入浴もできるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の特技や趣味、能力を活かした役割がある。畑仕事、裁縫や漬物付け、時には調理をしてホームで楽しんだり掃除等も利用者が進んでしている。行事やドライブ、買い物等外出の機会も多く楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内施設の敷地の散歩遊歩道を日課として散歩している。また、買い物にも希望に沿えるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベータの昇降口が玄関になっており安全確保上、エレベーターの開閉の操作は職員が行っているが、出入りは自由にできている。併設の老人保健施設との出入り口は開放され自由に行き来している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の確認、避難手順等のマニュアルがあり併設の施設と合同にて年に2回夜間想定を含め実施している。消防署や地域の消防団を交えた訓練も行っている。また、備蓄品は法人が準備している。		

グループホーム 愛らんど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を立て、カロリー、栄養バランスを考えている。ホームで採れた野菜を使っての一品料理も食卓に上る。食事量、水分量は必要に応じ記録し、健康チェックを行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は掃除が行き届き清潔感があり、トイレ等の臭いも無く清潔に保たれている。リビングは極自然な置物があったり、絵画が飾られており、過程的な雰囲気の中、ソファでくつろぐ利用者の姿があった。また、玄関の正面はトイレの出入り口があるが、直接見えないようにパーテーション等で目隠しの工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者其々の好みの置物や季節の飾りがあり居心地よく過ごす工夫がされている。ベランダにはプランターがあり花を楽しむことができる。居室入り口には、本人の好みの暖簾が掛けられ自分の部屋を示している。		